

令和8年度 調布市立八雲台小学校 学校経営計画（学校長 石川 淳）

学校の教育目標

◎思いやりのある子ども(心の教育の充実) ○よく考える子ども(学力の定着を図る授業の充実) ○健康な子ども(体力・健康指導の充実)

目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像

～ はじめの一歩をていねいに ゴールを描ける八雲っ子の育成 ～

ビジョンの設定理由
(本校の現状と課題)

●教員について：本校が初任校である教員が 10 名(教員全体の 35.7%)在籍しており、教科担任制を軸として学年を単位とした学習活動を行う場面を意図的に作る。また、経験の浅い教員のみならず主任教諭段階でも、子どもへのかかわり方は成長や変容を見取って変化させるものにとらえさせ、児童理解をしていく上での特別支援教育に対する理解を深めさせることが必須である。教員から子供へも、先輩教員から後輩教員へも「はじめの一歩をていねいに」説明・演示・同行して相手の興味関心や意欲を喚起させたい。日々の授業実践では、カウンセリングマインドや特別支援教育の手法を取り入れて学習活動が主体的・対話的で深い学びとなり、児童の可能性を引き出すよう取り組ませる。

●児童について：学力・体力とも概ね市内中位だが、学習習慣・運動習慣とも日常化に至っていない児童が多く、個別最適な学びを推進するにあたり、習熟度の高い児童への発展的な学習への指導、基礎的知識・技能が未定着である児童への確実な定着、さらには探究的な学習形態を進め、学習満足度を向上させる。いじめ発生率は 4.3%(24 件)、不登校出現率は 1.3%(7 名)、登校渋りの傾向がある児童が 7 名おり、全件とも家庭との連絡を継続的に行っている。全体としてコミュニケーションスキルの向上や自己肯定感の育成が課題であることから、活動や出会いのはじまりで丁寧に価値付けし、この活動、この機会を通じて「ゴールを描け」個々のゴールに向かって主体的に進めていけるようにする。

中期的な経営目標

- 1 心の教育の充実に向け、感情や行動をコントロールできる力を付け、児童相互の良好な人間関係を確立させ、自他を尊重する態度の育成を図る。教職員・保護者・地域の協働のもと、豊かな情操と温かい人間関係を醸成する教育活動を行う。また、小・中連携や幼・保・小連携交流等に取り組み、非認知能力の育成と安定した学びの接続・連続を目指す。
 - 2 学力の定着を図る授業の充実を目指して、児童の学び意欲を向上させ、思考力・判断力・表現力の育成にすすめていく。教員には、校内・校外の研究活動を通してよりよい導入、探究、協働、振り返りの在り方を身に付けさせ、授業力の向上を図る。
 - 3 体力・健康指導の充実に向け、運動量を確保した体育の授業と、休み時間の遊びのバリエーション等を通して心身の健やかな成長を育む。
 - 4 コミュニティ・スクール 2 年目に際して、地域の人材や資源を生かした教育活動を積極的に展開し、学校、家庭、地域が目標の共有を図りつつ開かれた学校運営に取り組む。協働して取り組むことで、本校の児童をより健全に成長させられる意識を高め、実感していただく。
 - 5 特別支援学級・特別支援学校との交流・共同学習を推進し、インクルーシブ教育の考え方に馴染ませていく。校内研究は、教科は絞らず研究主題に沿って授業実践を重視し、教材観、導入、活動、振り返り、評価の一連の授業の流れを検討していく。
- 人・組織 教科担任制を軸として学年を単位とした学習活動を行う場面を意図的に作る。児童理解をしていく上での特別支援教育に対する理解を深め、児童の特性に合わせて指導できる教員を育成する。巡回指導教員の指導方法が在籍学級の指導にも生きるよう教員間の連携を図る。

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>

1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)
①挨拶・言葉遣い・時間を守る等の基本的な生活習慣を5月末までに全学年定着させる。	①全学年で教科担任制或いは交換授業を行い、どの子にも[ゴールを描ける]授業を展開する。	①体育授業は児童が仲間と協働しつつ試行・試合等体を動かしているような展開とさせる。
②調布市教育プランに基づき、主体的に考え、議論する道徳の授業実践を毎時間取り入れる。	②ICT 機器や学習者用タブレットを利活用し、学びを深め満足度を高める。	②休み時間の遊びを積極的に紹介し、体を動かすことの日常化を推進する。
(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)
①アンケート「基本的な生活習慣が身に付くよう指導をしている」の肯定的回答 97%を維持。	①「子供自身の学びを大切に授業や指導をしている」の肯定的回答 88%→93%にする。	①体育授業時間中の 2/3 は、体を動かしているよう体育科授業の実践を積み重ねる。
②「学校は、心の教育の充実に努めている」について肯定的な回答 90%→95%を目指す。	②2～6 年生では 1 日に 3 度以上、ICT 機器またはタブレットを利活用した授業展開を行う。	②「学校は体力や健康に配慮しつつ教育活動の充実に努めている」肯定的回答 90%を目指す。

学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>

4 保護者・地域との連携	5 特色ある教育活動	6
(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)
① 授業参観や、スポーツフェスティバル、学習発表会等教育活動を公開し、HP 等で広報する。	①調布市立学校研究指定校として特に暑熱時の体育館等で可能な遊びを広く収集、試行する。	①
②学校運営協議会の活動を、各学年や特別活動部会等との協働を推進することで後押しする。	②特別支援学校・学級との交流、副籍交流の活動を、負荷が掛かり過ぎないように配慮しつつ行う。	②
(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)
①「学校は、授業などの公開を積極的に行っている」の肯定的回答 98%→100%を目指す。	①休み時間の自発的・継続的で安全な運動例を他校に紹介する資料を作成する。	①
②「PTA や地域組織と連携して児童の健全育成に努めている」の肯定的回答 100%を維持。	②各学年とも年に 1 回以上、直接または間接交流を実施し、日常化を推進する。	②

人材育成・組織運営

- 教科担任制(交換授業)を全学年で実践し、担当教科の専門性を高め学習導力を高める。教科担当教員を学年付きの副担任として配置する。
- いじめ防止対策委員会、特別支援校内委員会の活動を、月に 1 度の定例会と、臨時会を招集して有機的に実動させる。いじめにつながる事案を早期発見し、即時の初動対応を組織的に行わせる。年度をまたいだ観察案件 22%を 1 学期末に 0%にする。
- 企画会を主宰し、主幹教諭に認識共有と経営参画の実感を持たせる。分掌統括とライン判断の力量を高めさせ、各主任の育成に繋げる。
- 当初申告を一層充実させ、職層相応の重点を確認し、それに基づく目標を設定させる。特別支援教育に係るキャリアプランを持たせる。